

## 1964年の東京五輪聖火トーチ 東洋学園大で展示



～情熱の記憶を次の世代へ～



聖火トーチを手に笑顔を見せる3人組の高校生

東洋学園大学本郷キャンパス(東京都文京区)

に、1964年の東京オリンピックで使用された聖火トーチが25日まで展示されている。

これは、同大第6代学長で財団法人オリンピック組織委員会(IOC)理事や衆院議員を務めた愛知揆一さん(1907

〜73)ゆかりのもの。ステンレスとアルミの合金で、長さ63センチ、最大径17センチ、重さ815.5gの銀色の筒状。当時のオリンピックのロゴもデザインされている。同大1号館で一般公開をしており、実際に持って記念撮

影をすることもできる。

この展示の企画をしたのは、同大現代経営学部の本庄加代子専任講師。聖火トーチを学生に見せると反応がよかった。ト

ーチが壊れる恐れもあったが、歴史にも未来にも興味を持ってほしいと展示することにした。

来場者はこれまでに約700人。在学生や職員

だけでなく、高校生や近所に住んでいる人などさまざまな人が訪れ、中には当時聖火ランナーとして走ったという人も。聖火トーチを持ってみると思ったより軽いという声が多く、約4割の人が次

の東京オリンピックが楽しみだと答えている。

オープンキャンパスの際に立ち寄ったという高校3年生の稲葉一将さんは「2020年のオリンピックでは、野球が復活するので生で見たい」と語る。本庄専任講師は「イベントに来場した大学生たちが4年後の東京五輪に思いをはせることで自身や日本の将来へのワクワクとした期待感が高まってくれるとうれしい」と話す。【東洋学園大・釘田まこと、写真は早稲田大・砂田理恵】